

仕事から、起業に関する研修講師を務めることがある。その中に、女性の目的は、やみくもに起限定のセミナーもあり、業者の数を増やすこと(今年だけでも何回か携わった。)

女性はもともと現実志向が強いといわれるが、事後の継続相談などを通じ、決して派手ではないが着実に、したたかに事業へと展開されている方が多いことに気がつく。

いわての

風

数年前までは男女を問わず、見果てぬ夢を語るだけの受講者も多かった。こうしたケースでは、それぞれの人生航路を大きく踏み出すことのないよう、リスクを十分に認識してもらいながら、その後の進路を決めてもらうような配慮が必要だ。

その結果、当然ながら本人が抱く当初の思いに反することも多くなり、起業の世話役としては悩

大規模なビジネスではないが、今年に入ってから盛岡市内での店舗開設だけでも、大変

ましいところとなる。しかし、この種の事業の目的は、やみくもに起業者の数を増やすことではない。

微力ながら、受講された方のその後の人生を充実にさせるお手伝いをするのが本来の目的であって、それが起業によるかどうかはあくまでも単なる手段にすぎない。そんな当たり前のことをあえて自戒しながら対応する

関洋一 一関市・企業世話人



たくましい女性たち

ラエティーに富んでい... T子さんは、二十数年間の喫茶室勤めから、子どもさんたちの自立を機に、おぼんざいの店を始めた。

行ったこともなかった金融機関と勇気を振り絞って折衝し、開店資金を確保。さらに数多くの物件から店舗を探し出し改装の陣頭指揮を取り、仕入れルートを決めて開店した。

自称「ハワイおたく」のS子さんは、最初に買った金融機関ではまったく相手にされなかった

せき・よついち 52年茨波町生まれ。東京理科大学。商社勤務、誘致企業取締役、中小企業支援センター・プロジェクトマネジャーなどを経て現在は中小企業大学校講師、岩手大客員教授、盛岡市創業支援マネジャーなど。

からなされているのだから。それに引き換え、男性陣は上げ膳据え膳に慣らされ、一つのこと集中できる環境が整わなければ、重い腰が上がらないのかも知れない。

「九州男児と奪られるが、実は支える女性が立派なのだ」など、裏方としての定評は確立済みだが、これは九州に限らず全国共通だ。

だから、当地でもおのの立場で「人財」として大いに輝いてもらいたいと率直に思うのである。

同じ九月、家庭を何よ

起業もよし、裏方もよし